

医薬品
開発

企業

決してあきらめないこと、そして続けること

町田芽久美 (日本化薬㈱ 医薬事業本部 医薬開発本部 臨床開発部
試験管理グループ長)

仕事のやりがい

製薬企業で医薬品の開発(臨床開発)の仕事をしています。基礎研究で見いだされた新しい役に立つ薬の臨床試験を行って、患者さんのために少しでも早く届けることが使命です。具体的には臨床試験の進捗を管理し、試験の品質の確保を担っています。入社後の15年間は、研究所で主に医薬品の基礎研究に従事していました。社内異動で基礎研究から臨床開発に変わる時は戸惑いもありましたが、続けることで現在の仕事が自分には適していると思えるようになりました。

進路決定のきっかけ

高1の化学の先生に憧れ、化学を勉強したら化学が面白くて好きになり、そのまま大学は理学部化学科を選びました。大学4年次に配属された研究室で有機合成実験に魅せられて、さらに研究を続けようと思い、そのまま大学院の修士課程に進学しました。男女雇用機会均等法直前で、男性には沢山の会社案内が届いていても、自分のところにはほとんど来ない状況でしたが、縁あって日本化薬㈱の研究所に入社しました。入社後は化学にとらわれず、与えられた仕事を何でもこなして自分の専門領域を広げていきました。

仕事と生活のバランス

入社2年目に大学時代の同級生と結婚し、その後二人の子に恵まれ、会社では子供のいるママさん研究者のフロンティア的存在でした。育児休職のない時代で、子育ては保育ママさんや実家の母の協力を仰いで乗り越えました。子供達には「沢山の人があなた達を愛してくれ、一緒にいてくれる。あなた達はラッキーなのよ」と言って育てました。今の私があるのはパートナーを含め周囲の環境に恵まれたからだと感謝しています。現在、夫は単身赴任、子供達は理系を選択しそれぞれ地方の大学に進学しています。

進路選択に対するメッセージ

女性の人生にはいろいろな選択肢がありますが、仕事を持つ事は人として当然で、また、自己実現のためにも重要な事です。理系の道を選んだことで、企業の中でもできる業務の範囲が広くなり、結果的に仕事を継続することができたと思っています。仕事を続ける上では、いろいろな困難や迷いが出てくることも多いのですが、「あきらめない」「物事は前向きにとらえる」をモットーに、とにかく辞めずに続けて欲しいです。続けることで、計り知れない大きなものを得ることができます。

＜町田芽久美(まちだめぐみ)プロフィール＞

1979年3月埼玉県立熊谷女子高校卒業、同年4月埼玉大学理学部化学科入学。
1985年3月埼玉大学理学研究科化学専攻修了、同年4月日本化薬㈱高崎研究所入社。
1987年結婚、1991年長女、1993年長男出産。
1999年12月臨床開発部へ異動(通勤時間が片道1時間から2時間半に増大)
2009年より臨床開発部 試験管理グループ長、現在に至る。

